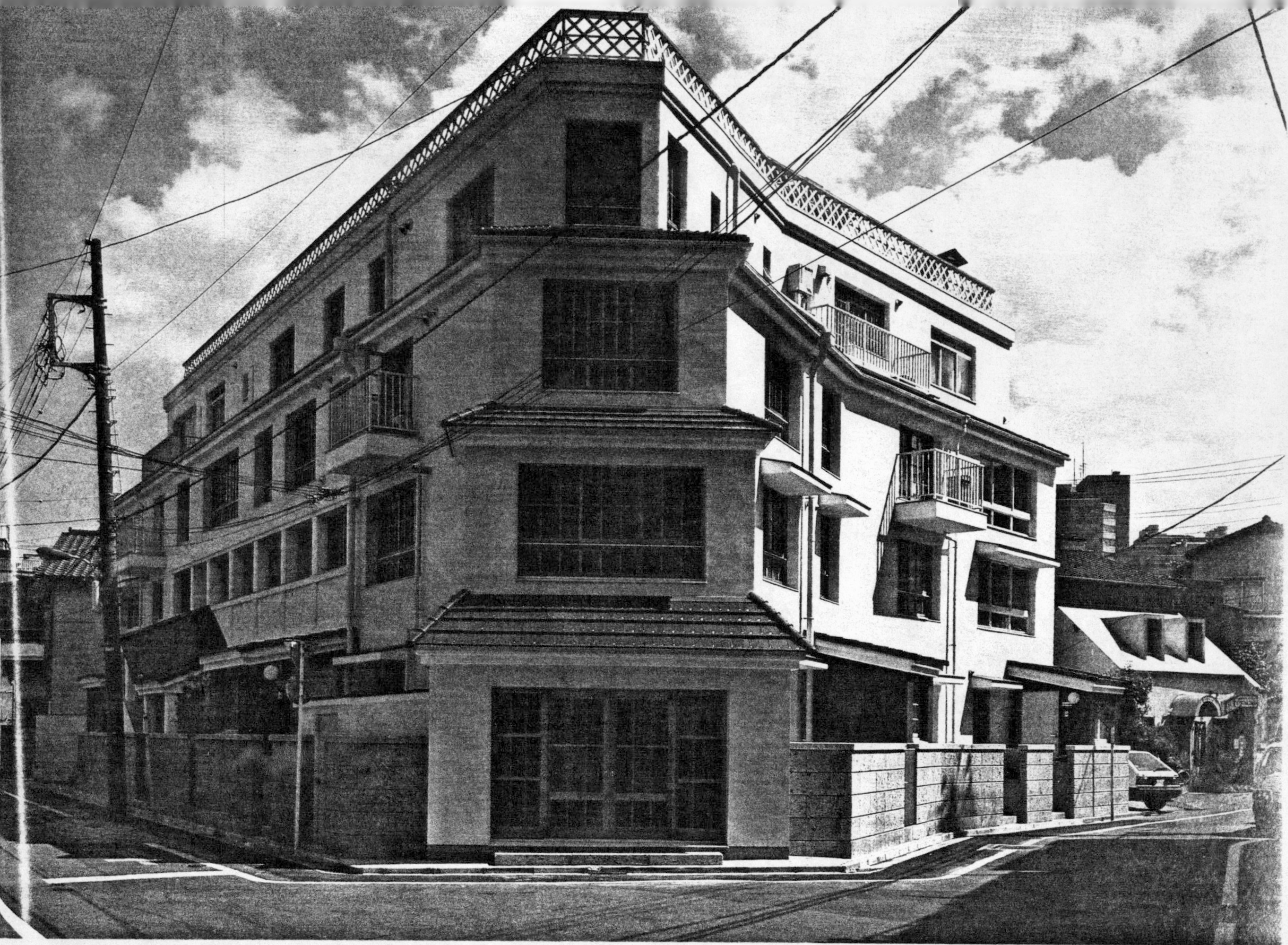


日経建築

1988 6-13

NIKKEI ARCHITECTURE





北西側外観。1~4階が賃貸アパート、4・5階にオーナーが住む。1階正面は、店舗付き住戸

ケース 1  
**MAISON DE LOURAN 楼蘭**

設計：日本環境構造センター  
 写真：齋部 功

敷地形状や街並みに反応し  
 微妙な形を織りなす

都内でも落ち着いた趣を残す文京区本駒込。幹線道路、<sup>しのぼす</sup>不忍通り沿いには、高層マンションがしだいに建ちつつあるが、一步裏手に入ると、木造住宅が軒を並べる静かな住宅地域である。

MAISON DE LOURAN (メゾン・デ・ロウラン) と名づけられた、オー

ナーの住居とアトリエを含む5階建ての賃貸マンションは、その中であってひととき異彩を放つ。

クリーム色の現場研ぎ出しテラゾーの外壁と赤い瓦屋根、そして木製のサッシで装った出で立ちは、エキゾチックなたたずまいを見せつつも、素材の

やさしさのせいか不思議と周囲になじんでいる。

「今回は、パタン・ランゲージの実践は二の次。都市の中での建物はどうあるべきか、といったことがメインテーマとなった」と語るのは、日本環境構造センター所長のハンスヨアヒム・ナイス氏。C・アレグザンダー率いる環境構造センター(米・カリフォルニア)の日本事務所を主宰する建築家だ。

ユーザーや施工者を巻き込んだ独自の手法で話題となった<sup>まいしん</sup>盈進学園<sup>ひがしの</sup>東野高校(埼玉県入間市)は、まだ記憶に新しいが、環境構造センターにとってこのプロジェクトは、事実上日本での第2弾となる。

今回も、オーナーである江本富貴雄



氏との模型を前にしての不断のやりとりや、現場段階で続けられた施工者を取り込んでの設計作業など、従来の設計・施工の枠組みを超えた特有のプロセスがふまれた。

ただ、その一連の設計プロセスの中でも氏が貫き通したのが、「都市デザインの新しい理論」(アレグザンダー他との共著)で発表されている原理の適用。「都市の骨格構造とのつながりを持たせながら、建物全体に統一感を与える」という都市的視点に立った建物のとらえ方である。

この考え方が最も端的に現れているのが、敷地形状を反映した不定形な建物の形態。その複雑さは、「区の構造担当者も音を上げた」(ナイス氏)ほど。不定形な敷地に沿って、建物は微妙な形を織りなす。各住戸の間取りも、それを反映してそれぞれが全く異なる。

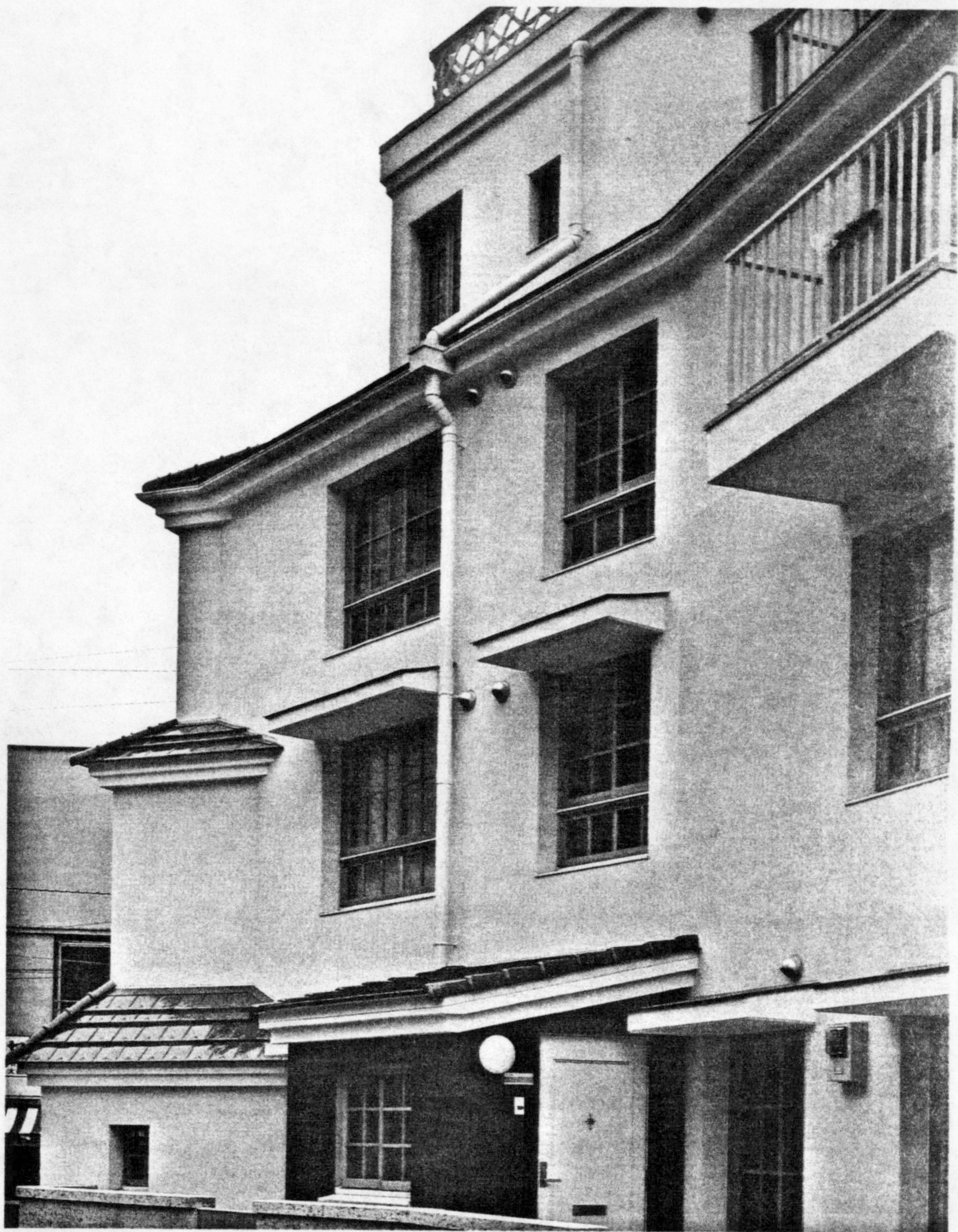
「東京都内のような不定形な敷地に建つ建築は、それを反映して当然不定形になるべきだ。それと共に、周囲との関係を保ちつつ、さまざまな領域の中心を形成する必要もある」

「すり鉢状にセットバックした建物でとり囲んだ中庭は、この敷地の強い中心となり、日照や採光のほか各住戸のコミュニケーションの中心となる」

「また、敷地を囲む2つの道路の交差点に突き出た部分は、ファサードに中心を与え、建物全体の顔となっている」

「さらに、5階ペントハウスの赤い方形屋根は、建物と空とにつながりを持たせ、建物屋根全体に中心を与えているのです」。ナイス氏は、こう説明する。

東京のような高密度な都市にあっては、建物は周囲とさまざまな関係を持たざるをえない。その関係を「領域の中心」という概念で整理を試みたのが、このMAISON DE LOURANなのである。



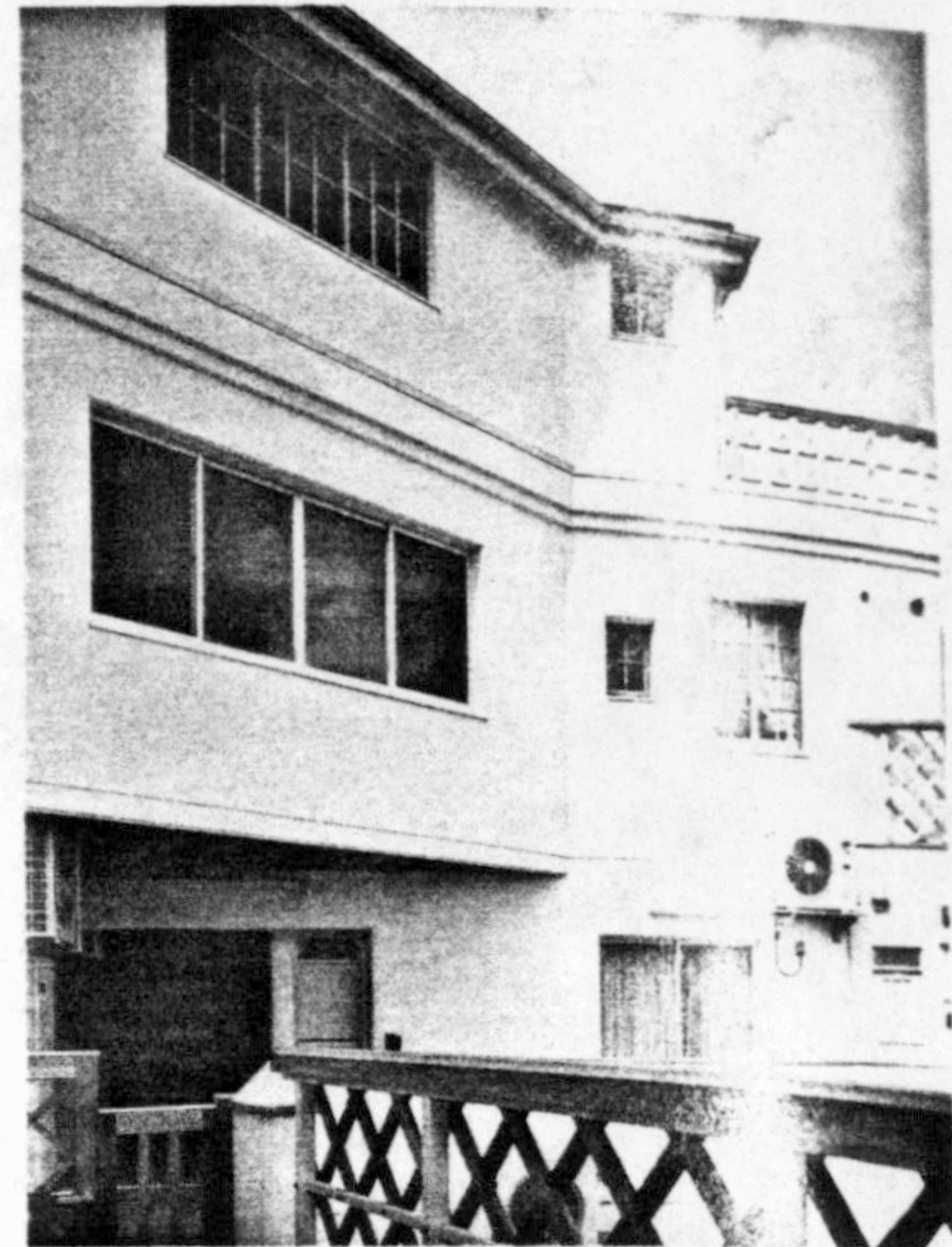
建物西側を眺める。クリーム色の現場研ぎ出しテラゾーの外壁と赤い瓦屋根が、木製サッシと共に建物に柔らかな表情を与える



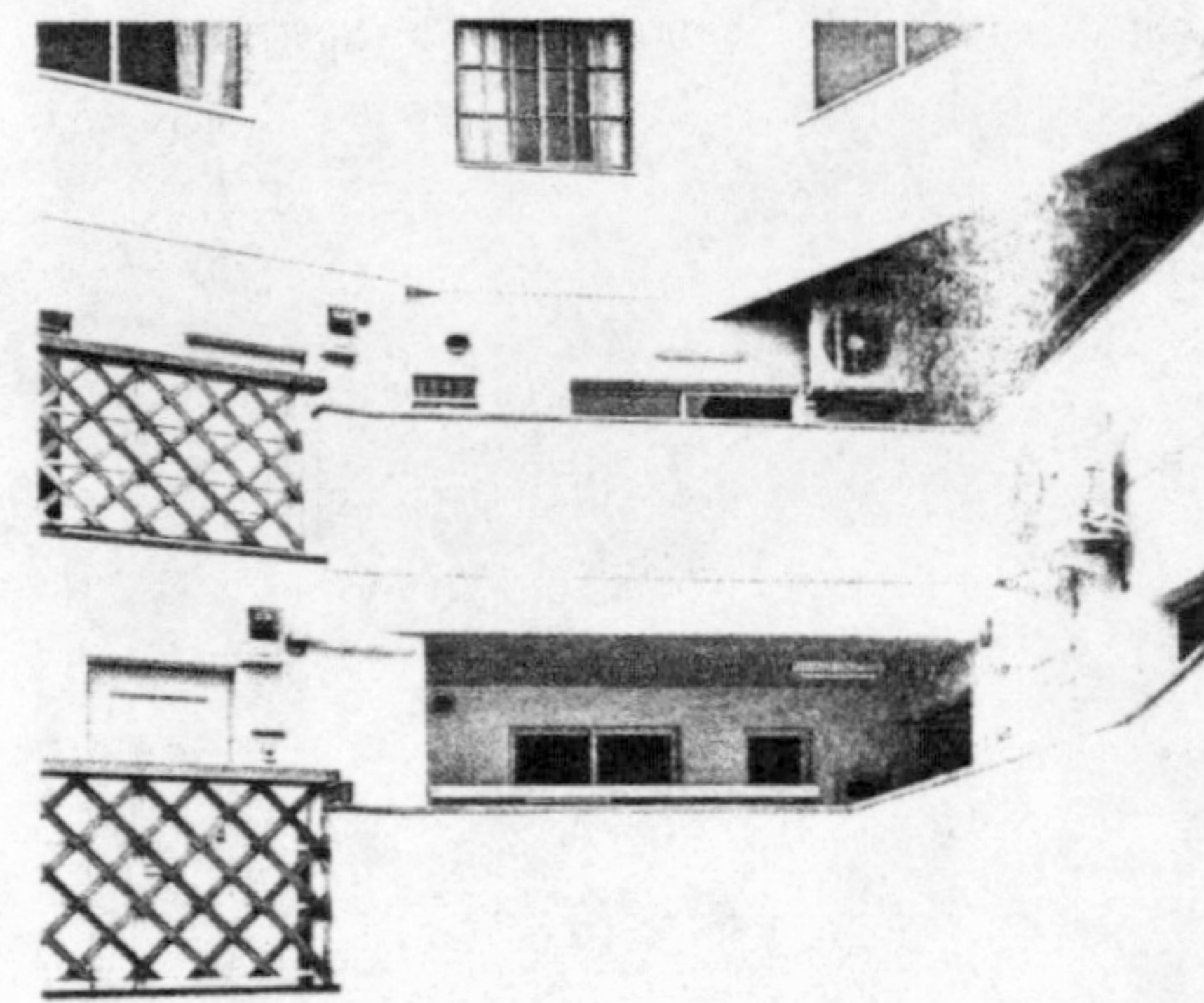
東側に設けられたメインエントランス



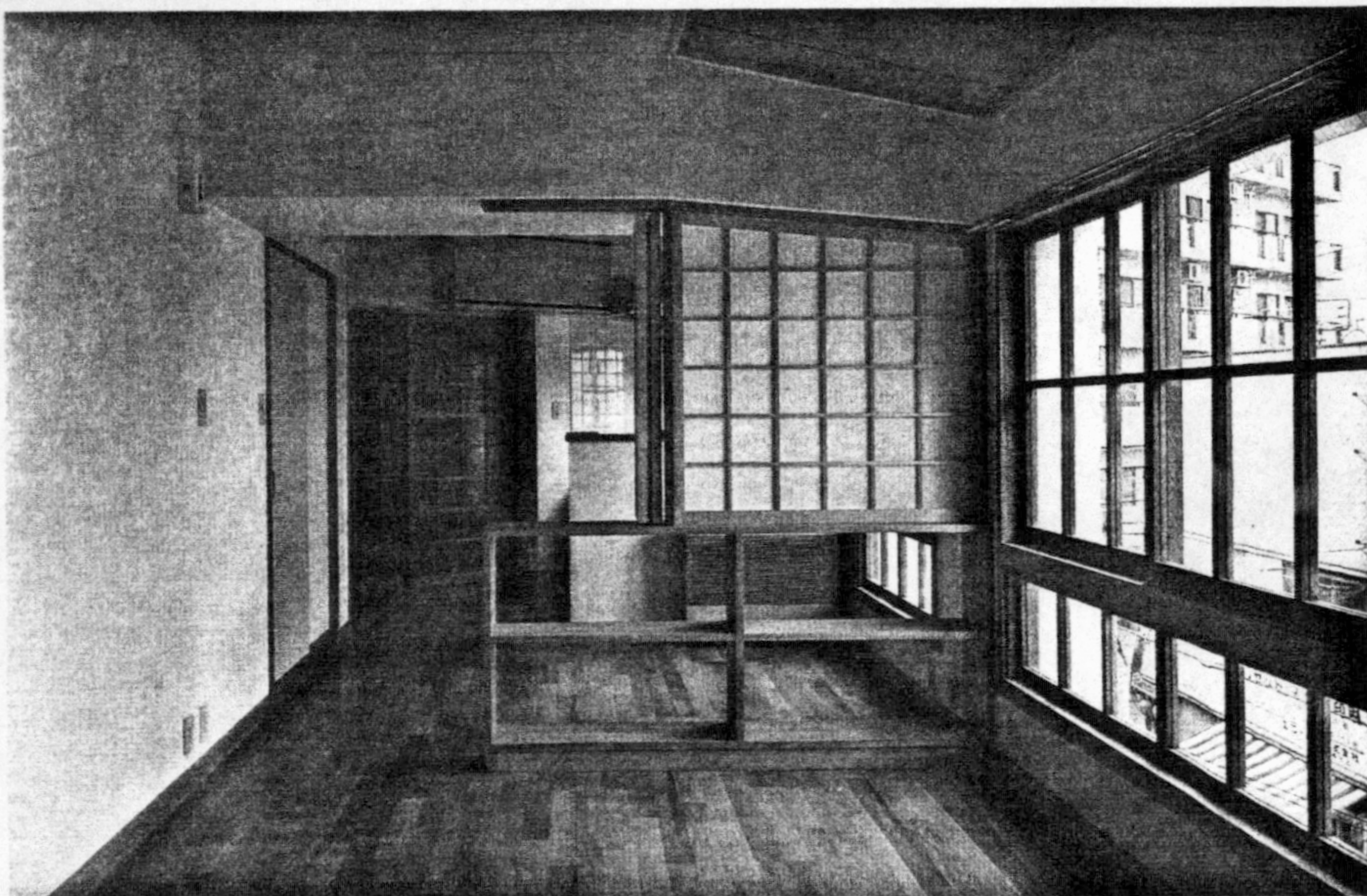
中庭全景。効率良く日照を得るため、建物はすり鉢状にセットバックしている



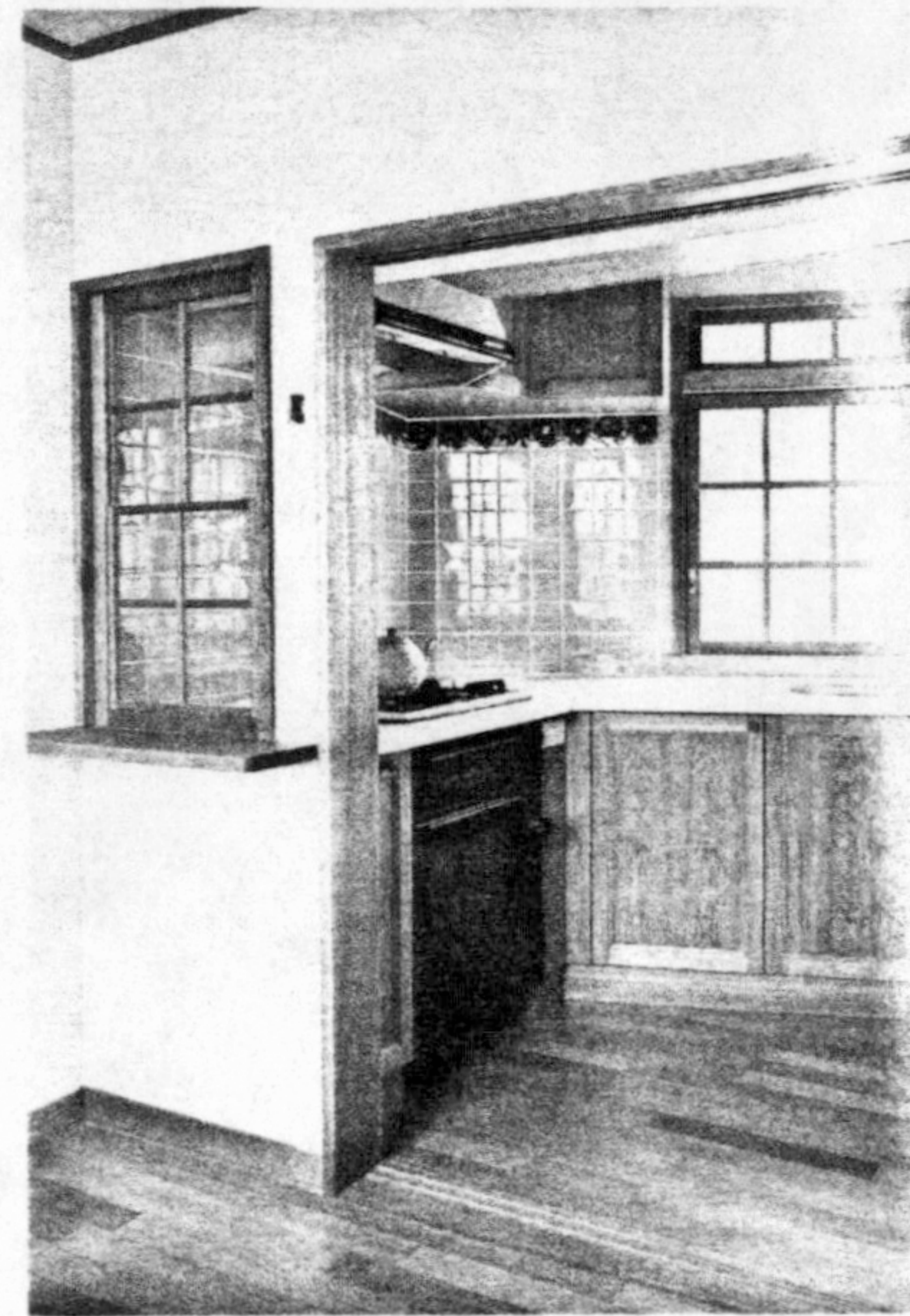
中庭3階から4・5階を見上げる



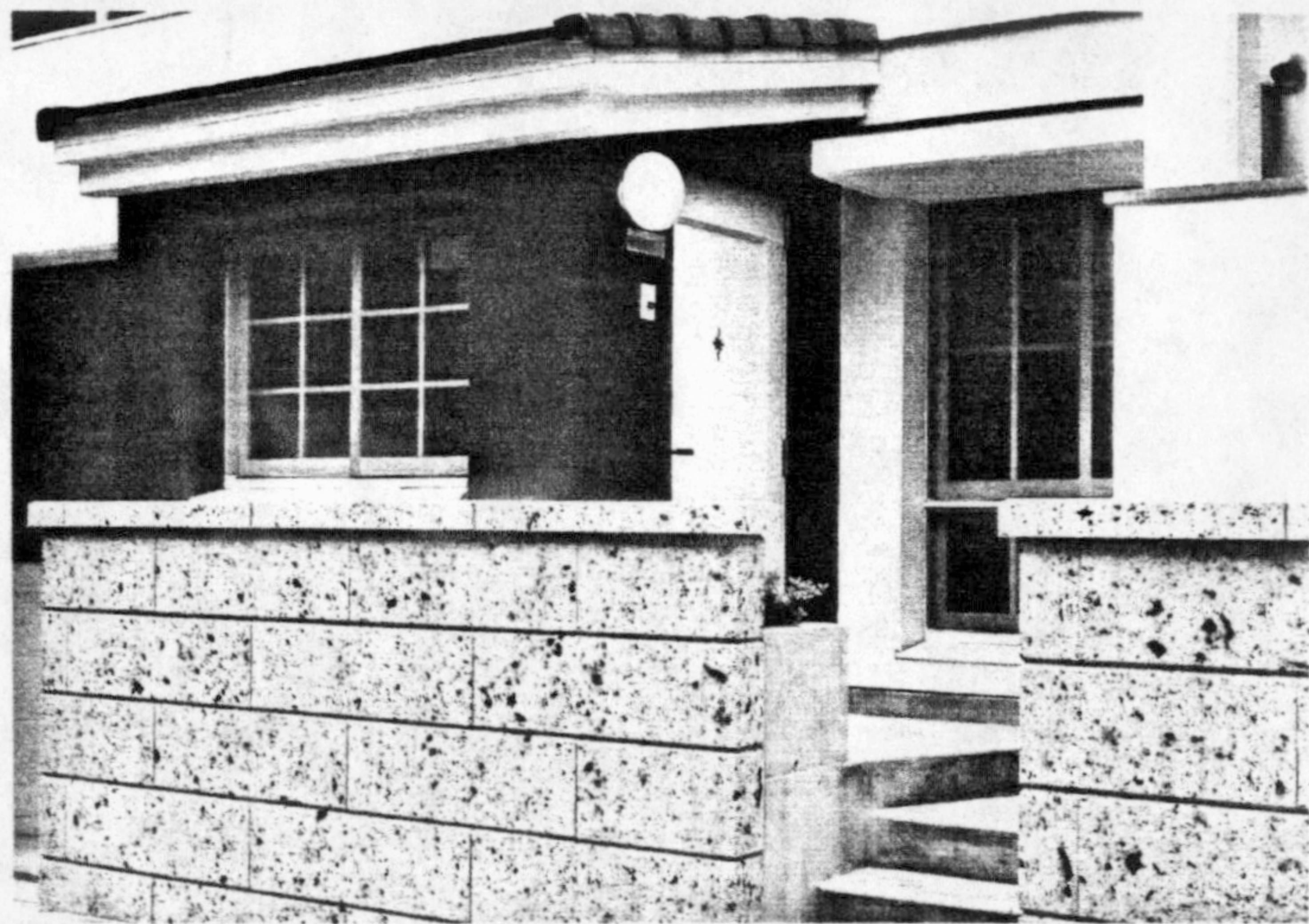
中庭の足元まわり。将来植栽が施されるという



3階の住戸の一室。ナラ材のフローリングとプラスターボード、ペンキ仕上げの内装

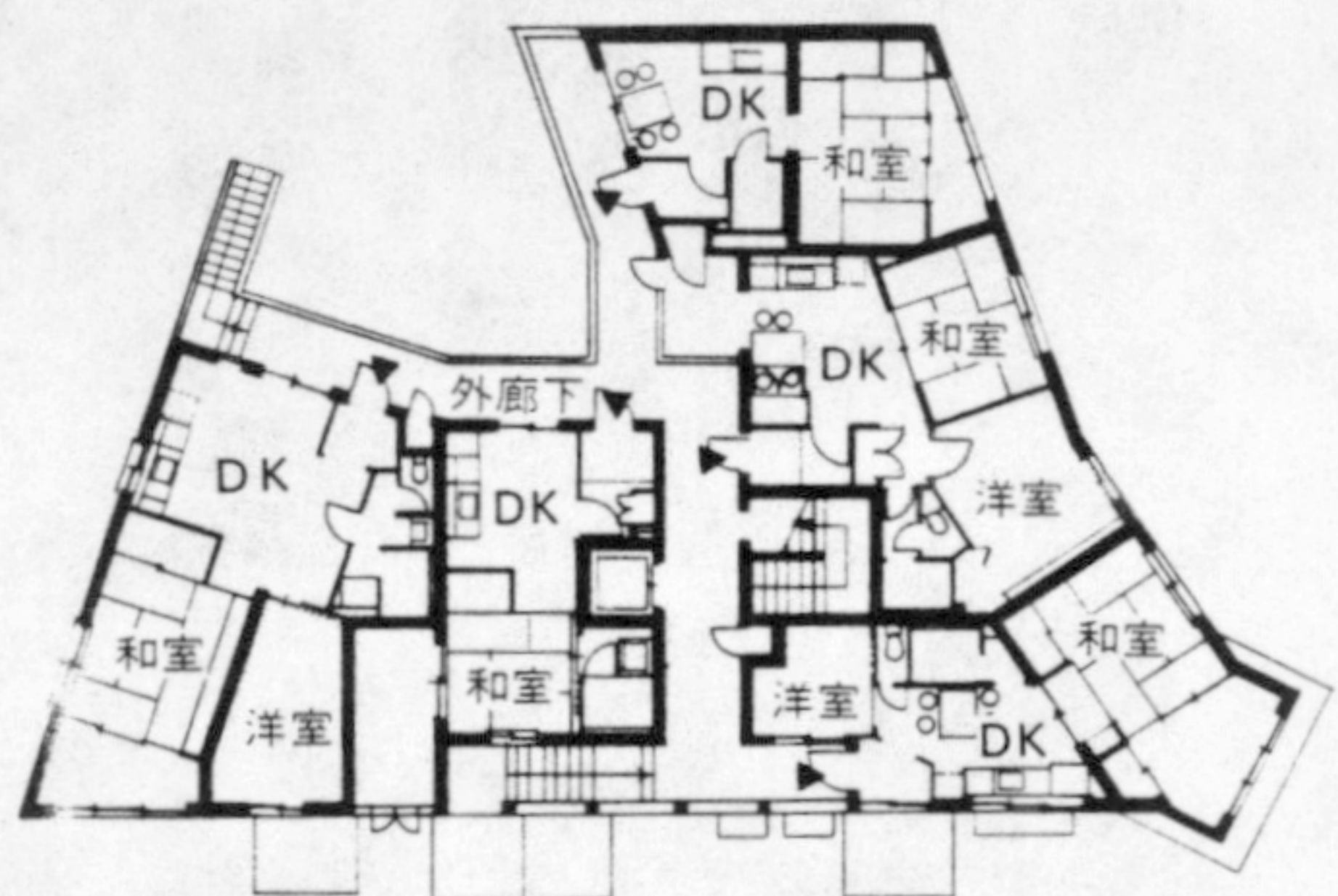


4階、オーナーの住居のキッチン

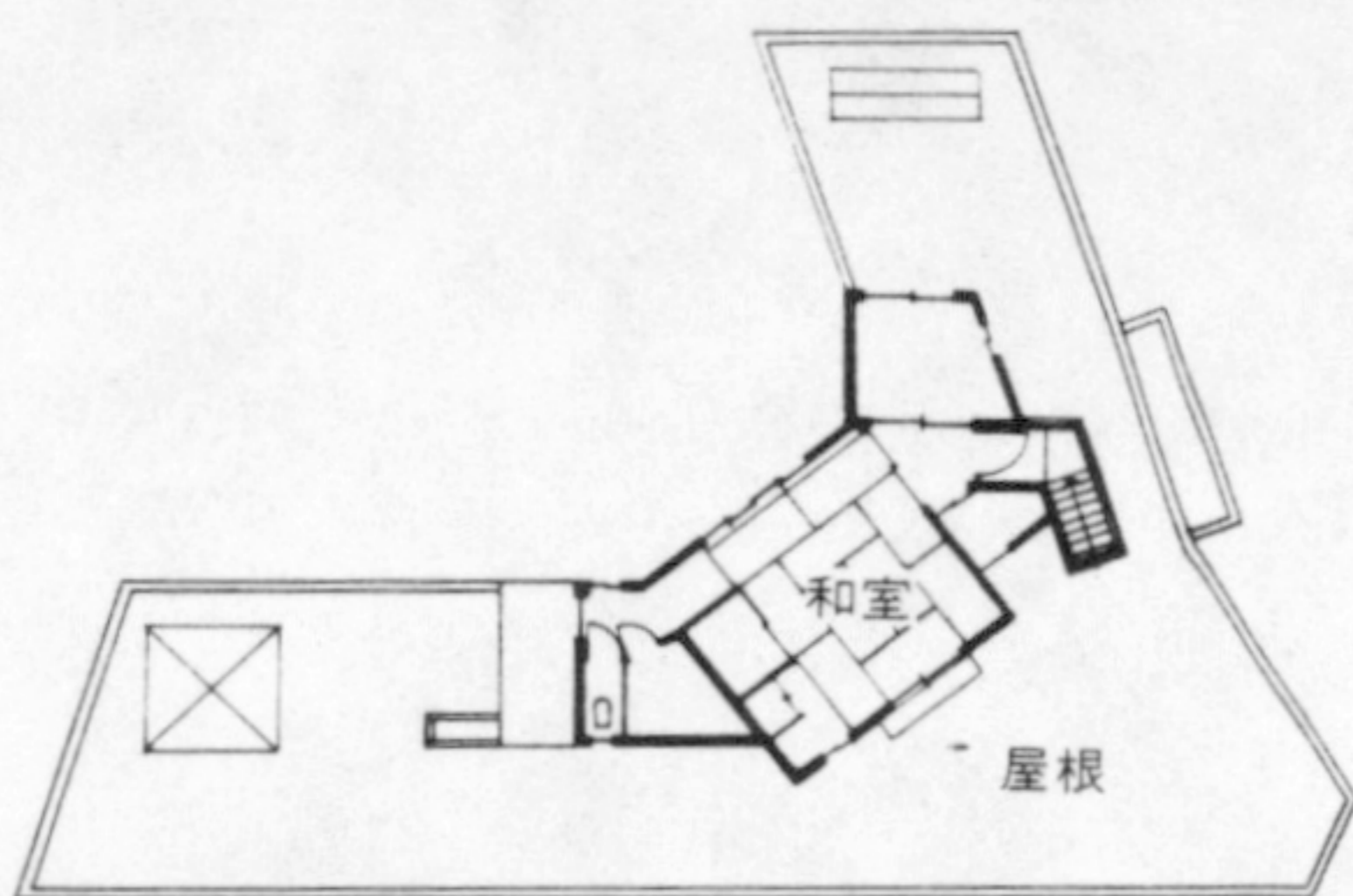


設計のポイント●外壁線の後退  
セットバックで生じた  
隙間を積極活用

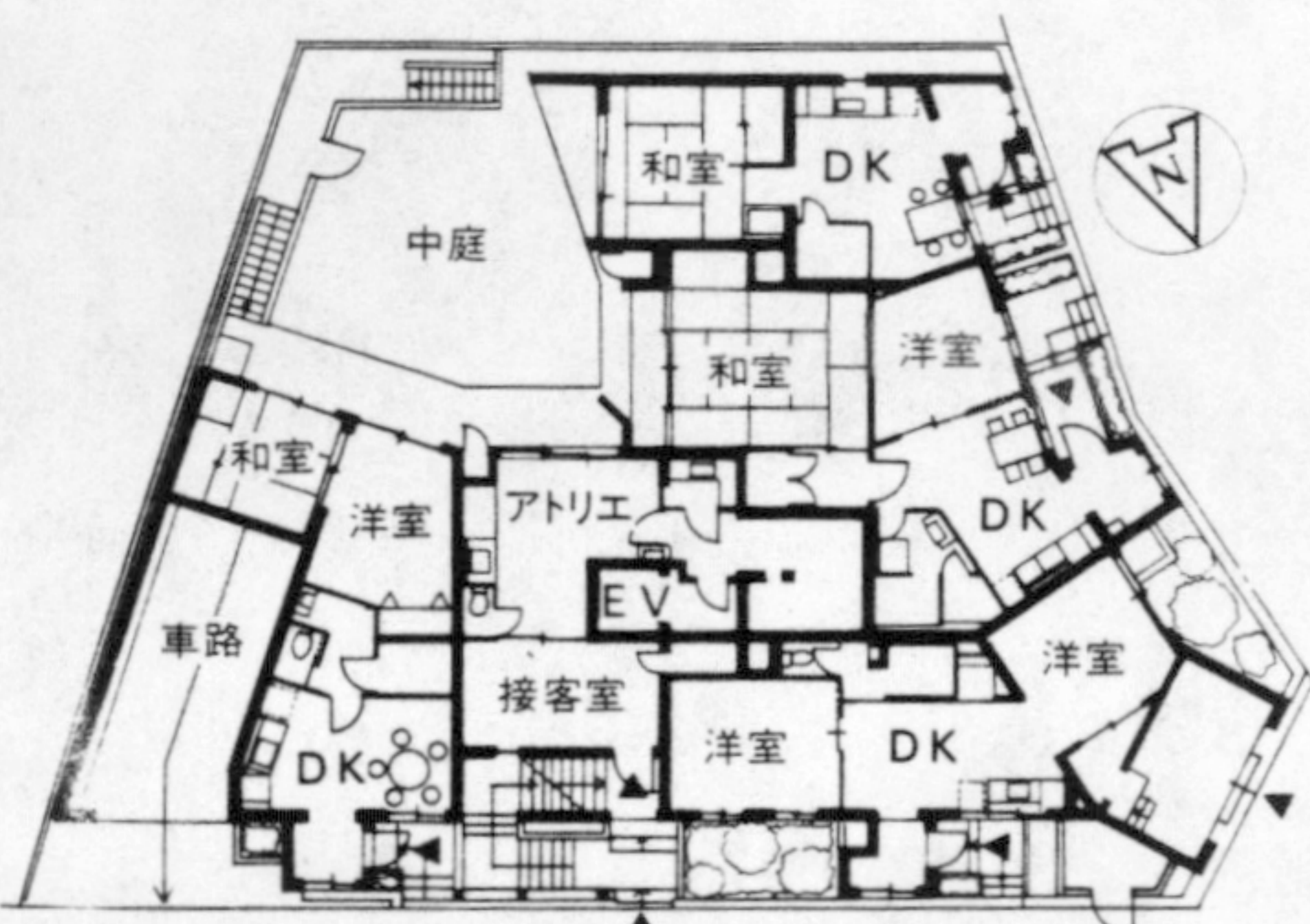
道路斜線で建物上部が大きく削り取られるのを避けて、敷地境界から建物を1階で2mセットバックしている。「こうして生じた2m幅の隙間に、戸建て風の玄関と、植栽をしつらえて街路とのつながりを持たせるとともに、街並みに対して積極的な働きかけを行っている」(ナイス氏)。



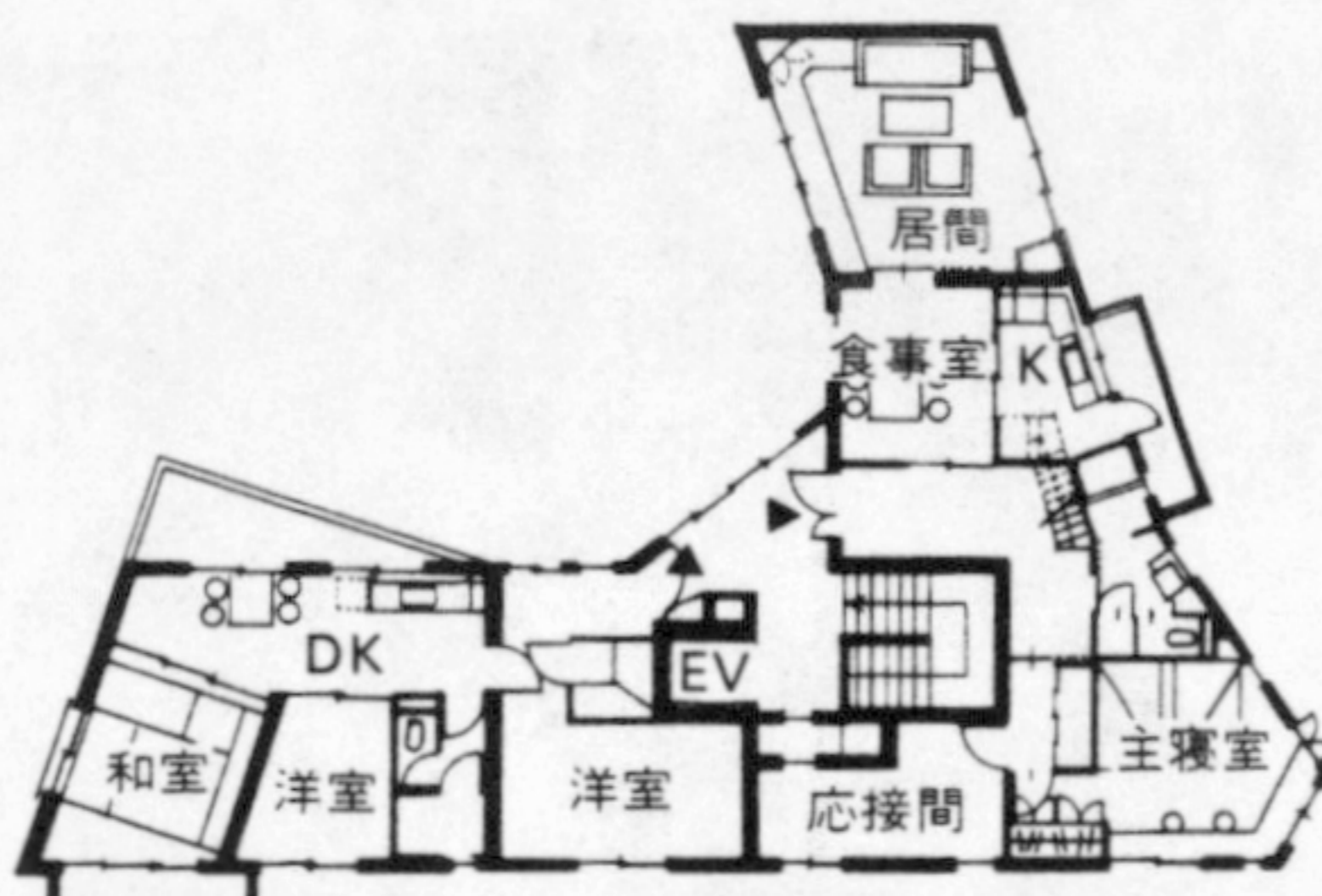
2階平面図



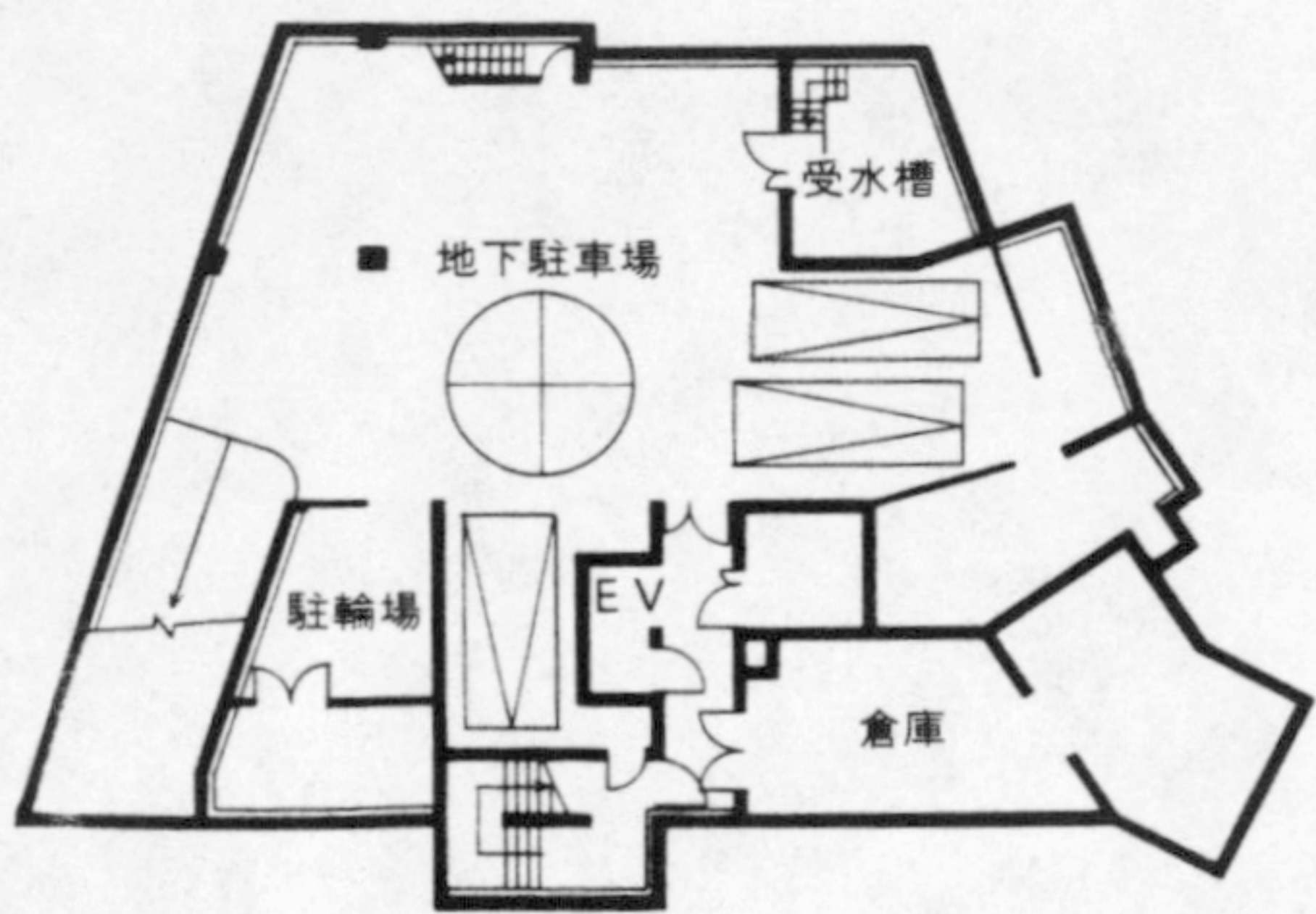
5階平面図



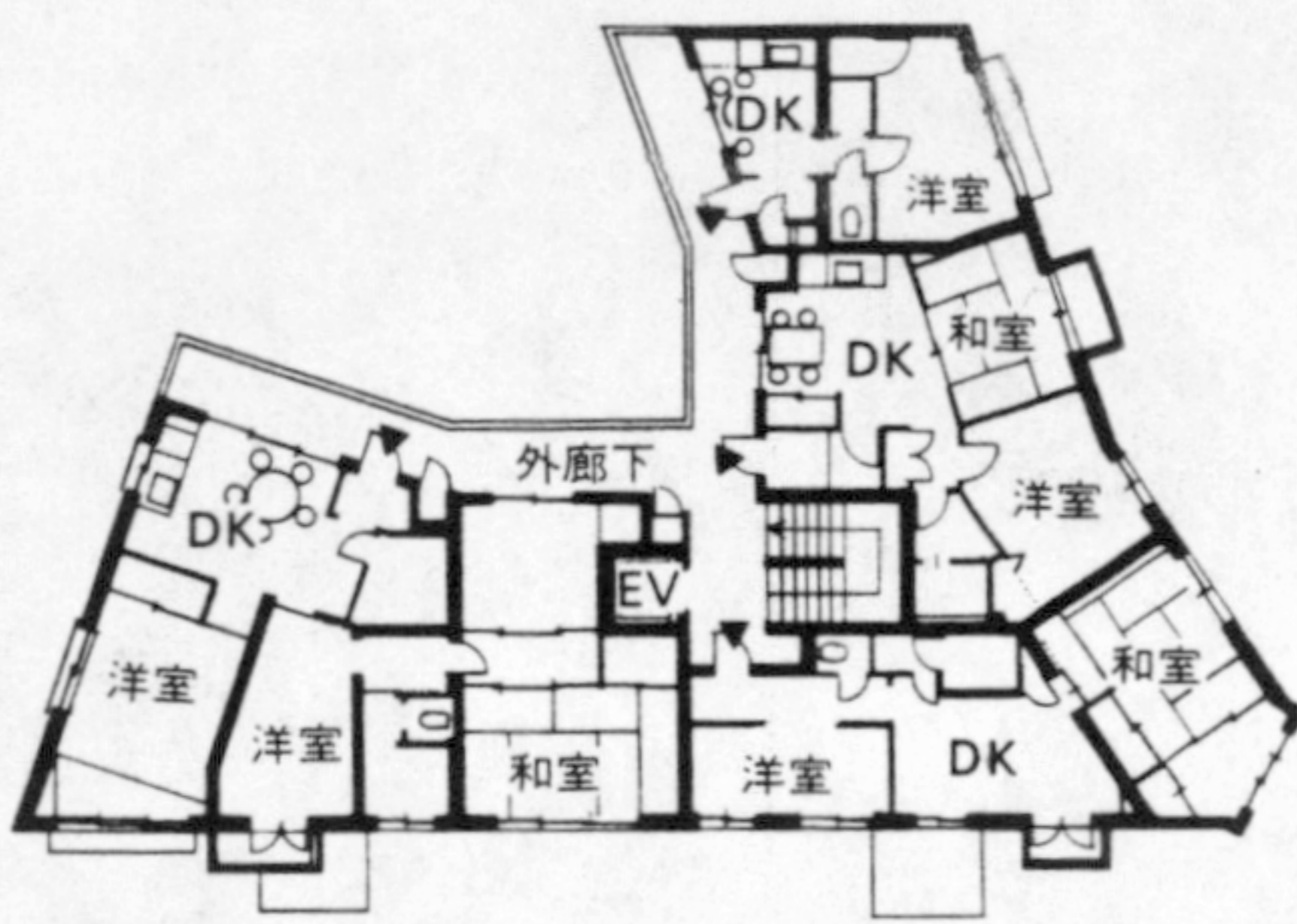
1階平面図(1/500)



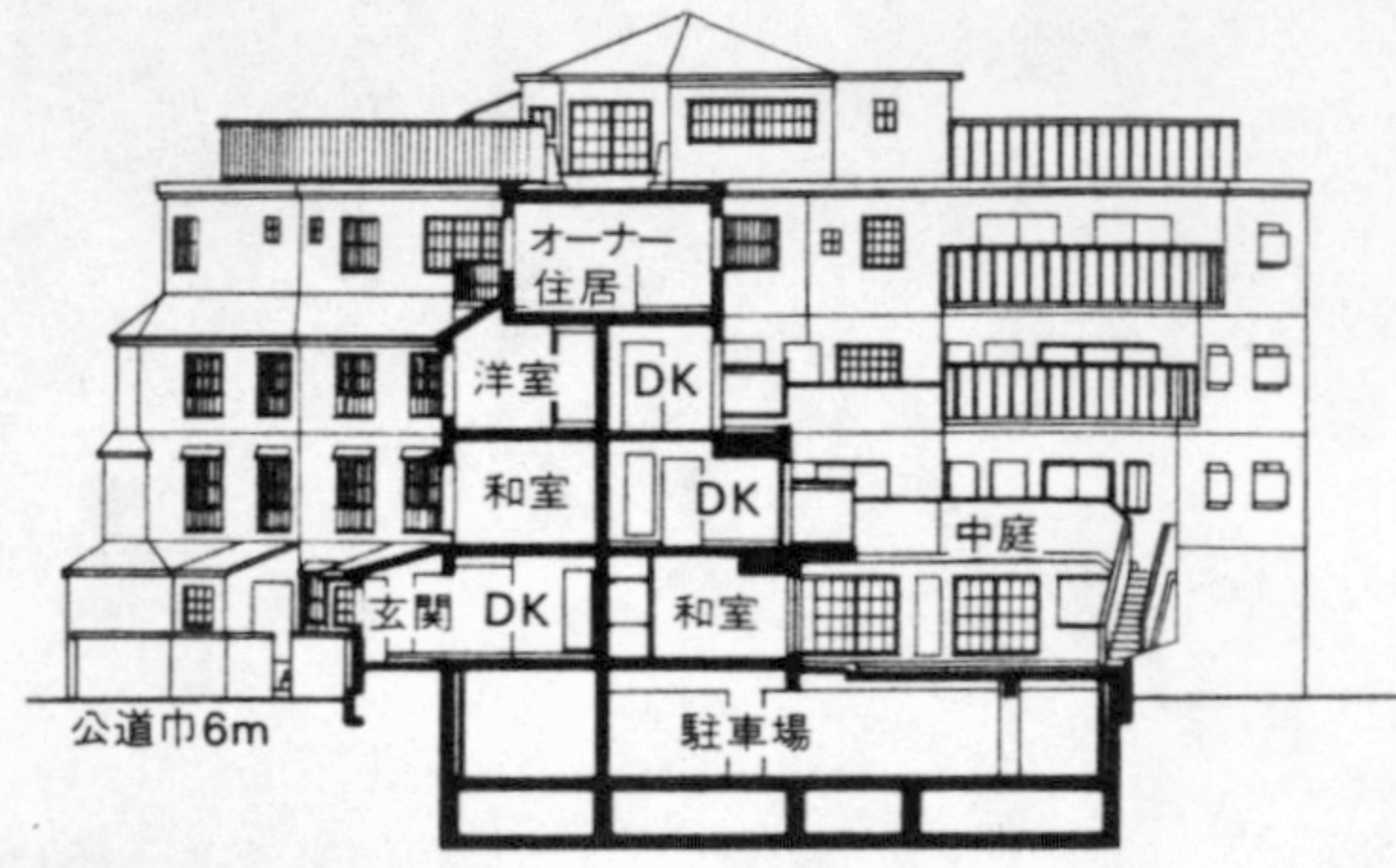
4階平面図



地階平面図



3階平面図



断面図(1/500)

- 名称——MAISON DE LOURAN 楼蘭
- 所在地——東京都文京区本駒込 4-27-3
- 発注者——江本富貴雄
- 設計者——建築：日本環境構造センター  
構造：T&T エンジニアリング  
設備：デンケン
- 監理者——日本環境構造センター
- 施工者——木部建設
- 施工期間——昭和 62 年 1 月～63 年 4 月
- 総工費——2 億 9000 万円
- 〈建築概要〉
- 地域・地区——住居地域，準防火地域
- 建物用途——地下：駐車場，機械室，倉庫  
1 階：専用事務所，賃貸アパート  
2～4 階：賃貸アパート，専用住宅  
5 階：専用住宅
- 敷地面積——462 m<sup>2</sup>
- 建築面積——313 m<sup>2</sup>
- 延べ面積——1385 m<sup>2</sup>
- 建ぺい率——67% (許容建ぺい率 70%)
- 容積率——299% (許容容積率 300%)
- 構造・階数——壁式 RC 造一部軽量鉄骨造，地下 1 階・地上 5 階
- 最高高さ——15.3 m
- 階高——2.6 m (4 階は 2.7 m)
- 天井高——2.38 m
- 〈仕上げ〉
- 屋根——平板瓦葺き，フッ素樹脂塗装鉄板他
- 外壁——現場研ぎ出しテラゾー，セメント系モルタル金ゴテ仕上げ
- 外回り建具——木製サッシ，アルミサッシ